

辻本武史さんの逝去に哀悼の意を表します。

辻本武史さんは、関西地区生コン支部執行委員を23期勤められ、機関紙部長として「くさり」の編集をはじめ、各種の宣伝物の作成に携わってこられました。

機関紙以外でも、関西地区生コン支部の活動を編さんした「ソリダリティー25周年史」、「政策闘争の軌跡・35周年史」の制作や中央本部の「連帯20年史」編さんにも協力してこられました。

機関紙部活動では、ブロック新聞の発行の定期化を進めるため、ブロック機関紙部員の発掘と編集体制の確立に尽力されました。

産業政策運動では、辻本さんが担当執行委員と連携して、大阪府はじめ各行政やゼネコンへの申し入れ行動に取り組み、生コン会社が行う過積載、納入生コンの加水、指定時間以外の納入など品質を無視した違法行為の摘発を進め、生コン業界に品質の大切さを訴えてきました。

この関西での政策運動が注目を集め、関東地方では欠陥マンションやビルの手抜き工事が発覚し、「シャブコン」（生コンへの加水）問題をマスコミが取り上げたときに支部も取材に協力してこられました。

日中労働者交流協会では、常任理事を務め会の運営に関わり、会報の定期発行や日中労働者の交流・友好に尽力を尽くされました。

このように第一線で、連帯労組の活動に積極的に関わっていた中、昨年9月頃から体調が思わしくなく、10月2日に自宅近くの病院に入院されたときは、すでに病魔が体全体に広がっていたそうです。家族が医師から病名を告げられるとき、辻本さん本人も立ち会ったそうです。

一日も早く現場復帰するため、担当医師の指示に従い治療に専念。一時は、退院し自宅で療養できるまでに症状が安定し、回復の兆しがありました。

家族の声援を受け、病いと闘われましたが、6月8日午前11時に入院先の病院で眠るように旅立たれました。

辻本武史さんのこれまでの功績を讃え、貢献に感謝し、積み上げられた成果を次なる活動に活かすことが、共に歩んできた私たちのこれからの責務だと思います。

ご遺族皆様方に哀悼の意を表すとともにご人徳を偲び謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

全日本建設運輸連帯労働組合近畿地方本部

書記長 垣沼陽輔